

**センター試験出願 受験近づく**

センター試験の出願を、本校では一括して秋期休業中の9月29日に行いました。先日、出願の登録内容の確認はがきがセンターから届き、3年生は個人宛のはがきを受け取って、内容の最終確認作業を終えたところです。全国的には、10月6日17時現在の出願者数が52万8323人との発表がありました。

3年生は、10月11月は休日返上で模擬試験を受験するなど、勉強に専念して頑張っています。特定大学のプレテストも始まり、多くの人が希望して受験に行っています。センター試験まで残り80日を切りました。クラスによってはカウントダウンのカレンダーが作られるなど、いよいよ受験直前の雰囲気が高まってきているところです。一日一日を有意義に過ごし、本番で力を発揮できるよう、着実に準備を進めていってほしいと思います。

9歳から11歳はゴールデンエイジとよばれ、自分が思ったように体を動かすことができるようになる時期です。神経系が発達するこの時期は、スポーツなどにおいて技術力が大きく伸びます。現役の受験生にも、このゴールデンエイジに相当する時期があります。10月中旬から12月中旬にかけての約2ヶ月間がその時期です。10月に入り、目の色を変えたように学習に励む人が現れてきました。では、なぜこの時期に学力が伸びるのでしょうか。

夏休みからコツコツと学習を続けてきた受験生は、断片的な知識が体系的な知識に変化し、問題を解く能力が高まるからではないかと考えられます。また、教科書を進めてきた授業が一段落し、受験に向けた演習を中心とした授業に切り替わっていくこの時期は、分からないことが具体化してくるので、何を解決すればさらに理解が深まるのか見通しもよくなり、さらに学ぼうという意欲が湧くのも理由の一つと考えられます。各教科の面白さが分かるようになった受験生は、まさに学問を学ぶという高み、すなわち大学での学びへの大きな一歩を踏み出しているのです。

受験は団体戦と言われますが、クラスの中で目の色を変えて学習する人が増えれば、クラスの雰囲気もさらに良くなり、クラス全体の更なる学力向上が見込めます。今こそ、ゴールデンエイジの子どもたちのように、思い切り学力を伸ばしていきましょう。

文理選択**— 1年生 —**

2年次からのコース分けは、卒業後の進路を決定するうえでとても重要な選択です。文系コース、理系コースについての説明を紹介します。

<文系コース>

資料や情報を収集し、自分の言葉で表現する力が要求される。国内外の文献を読みこなす国語力・語学力だけでなく、専門分野の知識を深め、社会の動きに敏感になることが要求される。また、統計等を用いる経済学・心理学等は勿論のこと、他の学問も論理的に考えていくため、数学的な思考も重要になってくる。主に法学、経済学、文学、哲学、心理学、歴史学、語学、芸術、体育、教員養成（文系）等の系統の学部・学科に進学したい生徒を対象としたコース。

<理系コース>

問題に対して、仮説を立て検証する力が要求される。自然科学の事象を理解するための理学的な知識、実験データを正確に把握・分析するための数学力が求められる。また、論文やレポートを書くための表現力、文献を読みこなすための国語力・語学力も求められる。主に理学、工学、農学、水産、獣医、医学、歯学、薬学、医療系、食物栄養、教員養成（理系）等の学部・学科に進学したい生徒を対象としたコース。

*但し家政学、福祉関係は両方のコースが考えられる。

*看護系大学への進学を希望する人は、理系を選択することが望ましい。看護系入試の場合、理科の履修は理系のほうが有利と思われる。

鹿児島中央高校の歴史を紡ぐ者として

最近、正面玄関から入ってすぐの所に胸像が設置されました。既に目にした人もいることと思います。あれは、本校の初代校長である柳直一先生の胸像です。直接存じ上げているわけではありませんが、創立50周年記念誌の作成に携わった際に柳先生の本校生への熱い思いに感銘を受けました。今回この欄を担当するにあたり、55期生の皆さんにも柳先生の思いに触れ、今後の学校生活に生かしてもらいたいと考えました。

昭和38年4月6日に挙行された、第1回入学式での柳校長の式辞の一部を紹介します。なお、下線を付した箇所は、私が皆さんに特に心に留めて欲しいと思うところです。

みなさん、本日ここに挙行されている入学式は、他校に見られる入学式とはその意味を異にしております。諸君の入学を許可されたあの一瞬から、将来無限に発展してゆくであろう本校の歴史は始まった、本校にとっては忘れんとし、忘れえざる歴史のはじめであります。（中略）歴史は人間が作るものであり、人間はまた歴史によってつくられてゆきます。こうして歴史は一定の法則に従って展開して参ります。一定の法則とは、理想に向かって一步一步粘り強く着実に進むものは栄え、これに反するものは衰えるということであって、端的に言うと、努むれば即ち存し怠れば即ち滅すということであります。努則存怠即滅は歴史の鉄則であります。かくの如き歴史の観点から、本校における本日この瞬間のもつ歴史的意味、本日ここに席をつらねる、特に職員生徒のおかれている歴史的実存的意味を考えますと、この「出会い」が本校の学風ならびに諸君の将来を決定するものとして、肅然として襟を正し、歴史の法則に忠実ならんと誓わざるをえないのであります。

この日、第1期生が入学し、鹿児島中央高校の歴史が紡ぎ初められました。そしてその歴史は55年の時を経た今も、皆さんの手によって紡ぎ続けられているのです。

もう少し柳校長の式辞を見てみましょう。

我々を含めて入学を許可された新一年生諸君の一挙手一投足は、ただちに本校の校風となり、明春から入学してくるであろう無数の後進生徒に無限の影響を与え、彼らを作る歴史・伝統となるわけであります。

われわれの理想は、無量の意味を含めて、よい立派な日本人になりきることであらねばなりません。未来に生きる若い諸君自身の夢もありましょう。御父兄・県民・市民の皆さんのご期待もありましょう。本日入学を許可された諸君はすべて、本校の学習を通じ諸君自身の理想を達成し、父兄・県民の期待にこたえうる能力に恵まれた人たちばかりであると確信しております。（中略）しかし、能力あるもの直ちに実力ある優秀者ではありません。優れた能力もこれを磨ききたえあげなければ、諸君の生活を豊かにし歴史を動かす実力にはなりません。いわんや知・徳・体力は、磨ききたえることによってはじめて実力となり、歴史をつくる力となります。

この式辞は、もちろん直接的には第1期生へ向けられたものですが、鹿児島中央高校の歴史を紡いでいく全ての者に対して発せられたメッセージのように思われてなりません。入学して半年が経ち、いよいよ文理選択を迫られている今の自分を見つめてみてください。自分の能力を磨き鍛えるために最大限の努力をすることができているでしょうか？努力が必要なのは分かっているけれどもなかなか…という人が多いのではないのでしょうか。進学校・鹿児島中央高校の歴史を紡ぐ者としての自覚と責任といったものもモチベーションを上げる1つの材料にして、日々の予習・授業・復習に努めてもらいたいと思います。

国内体験学習まで2ヶ月を切りました。企業訪問・自主研修等の計画もほぼ完了して、あとはそれ以外の細かな部分を確認していく作業に入っていきます。この国内体験学習が終わった時点で、大学入学者選抜センター試験までちょうど1年ということを見ると、この国内体験学習を最後に君たちは「本格的な受験体制に入る」こととなります。54期生の諸君は、9月の体育祭をいい形で終えました。おそらく一番の思い出に残るこの国内体験学習も思いっきり楽しんで、受験に向けて気持ちを切り替え、一丸となって受験体制に入って欲しいと思っています。

ただ、不安がないわけではありません。休み明けの欠席は依然として減らず、特定の生徒が朝課外に遅刻するという状況もあります。君たちが本校に入学してきた一番の目標は大学進学だったはずですが、自分自身の夢を実現するために高校生活の残り半分以上を充実させようとするとき、君たちと先生方との信頼関係を築くことは大切な要因の1つです。安易に学校を休まない、遅刻しないためにも健康管理に気をつけながら、期限・時間を守るといった、最低限のルール・マナーを身につけるべきです。

特に国内体験学習の企業訪問の際に気をつけてもらいたい点を以下に挙げますが、これからの高校生活を充実させるためにも、以下の点を再度確認して、早速今日から、意識と行動を改めて欲しいと思います。

訪問先へは余裕を持って行く！（時間に余裕を持つ①）

「これは人として最低限守りたいルール。いかなる場面においても時間を守れない人への信頼はゼロに等しいもの」。時間を守るのは仕事でもプライベートでも当然のマナー。訪問先までの経路や地図を事前に調べるのはもちろんだが、特に朝の通勤混雑の時間帯は時間に余裕をしっかりとって行くこと。混雑に巻き込まれたり、電車が遅れてしまうことはよくあること。また、思った以上に乗り換えに時間がかかって道に迷ってしまう、など初めて訪問する場所にハブニングはつきもの。どうしても遅刻しそうなときは、訪問企業の担当者へ連絡する。こうした事態に備えて、訪問企業の連絡先は必ず控えておくこと。（万が一遅れる場合は必ず連絡し、お詫びと理由、そして到着時間の見込みを具体的な数字で伝える）

予定時刻の5～10分前に到着するのが理想的（時間に余裕を持つ）

時間に余裕を持つことは大切なことだが、約束の時間の30分前に訪問するなど早すぎるのもよくない。早く着いた場合、場所を確認して、時間を調整して約束の時間に合わせて訪問するのがマナー。5～10分前に訪問するように心がけたい。

身だしなみは大丈夫か？（普段から常に意識しておく）

対人関係での第一印象は最初の3秒で決まるといわれている。印象を高める要素は、「身だしなみ」「あいさつ」「言葉遣い」の3つ。身だしなみで大切なことは清潔感。君たちを受け入れる先輩方は、自分たちの頃と変わらない制服をまとった君たちに会うことを心待ちにされています。校章・組章はついているか？会場に入る前に鏡を見て、もう一度、自分の姿を確認しておこう。（お互いの身だしなみをチェックするぐらいの精神的な余裕は常に持っておきたい）

受付では元氣よく名乗る（相手の目を見て話す）

実際に社員の方と接する際、まずは受付で元氣にあいさつをして名乗ること。相手から名前を聞かれるのを待つのではなく、必ず自分から、学校・学部名とフルネーム、担当者の氏名、約束の時間を伝える。

あいさつはしっかりできているか？（先輩に対する言葉遣い）

入室の際は、誰でも緊張するもの。そんなとき、元氣よく「失礼いたします」や「よろしく願いいたします」と挨拶ができるかどうかは大切な要素。挨拶は、相手が君たちの声を初めて聞く言葉。しっかり声を出して、ハキハキと挨拶しよう。できれば笑顔で。最初の挨拶で声が出てしまえば、そのあとのコミュニケーションも案外うまくいくもの。

携帯電話の電源は切ったか？（お世話になる人に対する最低限のマナー）

担当者を待つ間など、携帯電話を触ったりしてはダメ。マナーモードにしているから大丈夫…でもない。たとえマナーモードであっても、真剣に話をしているときには、携帯電話の音が気になってしまうもの。電源は必ず切っておくこと。

国内体験学習に携帯・スマホを持って行こうと考えている生徒諸君へ

…校内持ち込み許可を申請していない生徒は出発までに、早めに申請しておくこと

残り80日を切った！

私は時間さえあれば、滝に行っている。公園化された滝・遊歩道が完備された滝もあれば、人知れず山奥に落ちている滝もある。道なき道(?)を進み、迷いながら到達した滝は数年経っても、迷わずに行くことができることが多い。一方で、知人に案内してもらい、簡単に到達した滝は1ヶ月後、自分一人で行こうとしても意外に辿り着けない。この差は「意識して周りをよく見ていたか?」から来ている。道に迷わないように、注意深く行動していれば、人間の脳は記憶しているものだ。だからこそ、1年以上経ってから、道のない山中に入っても、「思い出すことができる」のだ。逆に、何も考えず、ただ、案内について行った所は、脳が全く記憶していない、だから、次に行ったときに「思い出すことはない」のだ。

話は変わるが、今から約18年前、気象予報士試験の勉強をしていた。「温位」など初めての用語に戸惑い、高層天気図の読み方、エマグラムの利用、気象業務法などの法律に苦戦した。「この用語の理解は本当にこれでいいのか?」、「天気図を立体的に見るコツは?」…いくつもの本を読み、多くの問題に取り組み、自分の理解を確かめつつ、勉強を進めていった。自分のまわりに同様の勉強をしている人はいなく、独学を進めるしかなかった。勉強をしていて「孤独」を感じた日々だった。試験会場で、同様の勉強をしているたくさんの人を見たとき、妙にホッとしたのを覚えている。

センター試験までの日数が残り80日を切った。すでにエンジン全開で頑張っている人も多いと思う。が、まだまだ、エンジンがかかりきっていない人もいるように感じる。焦りの気持ちが生まれてきている人もいると思う。勿論、この時期は余裕のある時期ではない。が、残り数十日という時間は、何かに取り組み、結果を残すことのできる時間である。全国のライバルたちもみんな頑張っている。今、この時期はとにかくやるしかないのだ!とあって、中途半端な知識をため込んでも仕方がない。取り組んだことは、確実に、自分のものにすること。意識して取り組んだことは必ず記憶に残るのだ。後はそれを「いつでも、取り出せるように訓練すること」だ。そのためには繰り返し、繰り返し、粘り強く取り組むしかないのだ。幸いなことに、すぐ近くには、ともに頑張る友人がいる。先生たちもいる。孤独な勉強ではない。

この時期、焦る気持ちもあるだろうが、できることを、確実に、粘り強く、頑張るしかない。

半年後、それぞれが希望を叶えているように!

今、頑張る時だ!